

平成 21 年 5 月 15 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006 年度～2009 年度

課題番号：18530148

研究課題名（和文） フランス的経済統治の研究-世紀転換期における市場・政府・「社会経済」-

研究課題名（英文） Economic Governance “à la française”™: Market, Government and Social Economy at the Turn of the 19<sup>th</sup> Century

研究代表者 栗田 啓子（KURITA KEIKO）

東京女子大学・文理学部・教授

研究者番号：80170083

研究分野：経済学史

科研費の分科・細目：経済学、経済学説・経済思想

キーワード：経済理論、思想史、フランス、少子化、住宅政策、企業内福祉、アソシエーション

## 1. 研究計画の概要

19 世紀末から 20 世紀にかけてのフランスの経済統治の転換プロセスを理論と実践の両面から解明する目的で、「社会経済（*économie sociale*）」キーワードに、レオン・ワルラス、エミール・シェイソン、シャルル・ジッドを主要な分析対象として、市場と政府をつなぎ、それらを補完しようとした経済思想の特質の解明とその現代的意義の考察を行う。

## 2. 研究の進捗状況

（1）資料収集については、国内で 2 回、フランスで 2 回、実施し、予定の 3 分の 2 程度の資料を収集した。

（2）理論面からのアプローチに関しては、当時の社会問題のなかでも政治的にも重要な位置を占める人口問題に焦点を絞り、少子化の費用便益分析が開始されていたことを解明した。さらに、賃金水準の相対的上昇および少子化という現象がおこった結果として、マルサス人口論に対する批判が高まった点、この理論面の変化・深化を受けて、女性労働と家族に関わる人口政策が提案された点も明らかにした。

ワルラス、シェイソン、ジッド 3 者の「社会経済」概念の比較研究を行い、この概念の多様性と、それが多様な実践活動と深く結びついている点を確認した。

エンジニア・エコノミストのシェイソンにおいては、企業内福祉が労使協調を実現する手段と捉えられ、その担い手として、エンジニアに期待が寄せられ、「社会的エンジニア」

概念が開発されたことを明らかにし、社会経済学の一つのパターンの特徴を析出した。

（3）実践面からのアプローチに関しては、新たに出現した人口の経済分析と住宅問題との結節点として家族が重視されたこと、人口・住宅政策の担い手として、政府にとどまらず、企業や協同組合などのアソシエーションの役割が強調されたこと、そして、これらが世紀転換期フランスの新しい経済統治の原型を提供したことを指摘した。

アンドレ・ゴダンとエミール・ガレという二人の企業家による企業内福祉の思想と実践を分析することを通じて、企業の社会的責任の概念化の過程を明らかにした。そのさい、企業内福祉の一環としての従業員教育がジッドらに主導された「民衆大学」運動と強く関連している点、企業家の社会的責任の範囲が企業内にとどまらず、企業活動そのものにまで及んでいることが「社会経済」の思想と深く結びついている点を指摘した。

## 3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

社会経済の実践活動に関しては、人口問題、住宅政策、女性労働問題など、個別の社会問題への対応（企業内外の実践活動や政策提言、その担い手の問題）の分析が終わり、市場と政府をつなぐものとして多様なアソシエーションが構想されていたことを明らかにすることができた。

社会経済の理論面の研究においては、社会経済概念の多様性を示すことができたが、その相互の関連や既存の経済学との関連を明ら

かにするまでにはいたっていない。

#### 4. 今後の研究の推進方策

これまで、個別の社会問題、個別の経済学者の研究を遂行してきたが、今後の課題は、それらを総合するとともに、世紀転換期という時代の中にも的確に「社会経済」の思想と実践を位置づけることにある。そのために、

ワルラス、シェイソン、ジッドの思想の相互の直接的な影響関係（プラス、マイナスの両面）を検証する。

時代における位置づけという点では、とくに人口問題との関連において、社会経済の視点から、新マルサス主義と反マルサス主義との対抗関係を分析する。

福祉国家の形成とアソシエーションの思想と実践との関連を考察する。

#### 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 1 件)

栗田啓子「企業家の社会的責任-アンドレ・ゴダンとエミール・ガレのパターナリズム」、東京女子大学社会学会紀要『経済と社会』36号、pp.1-18、2008、査読なし

〔学会発表〕(計 4 件)

栗田啓子、The Emergence of the Social Economics in France: Walras, Cheysson and Gide, Association Internationale de Walras Conference、2008年9月12日、京都大学

栗田啓子、世紀転換期フランスにおける人口問題と住宅政策、経済学史学会、2007年5月26日、九州産業大学

栗田啓子、Social Responsibility of Entrepreneurs: The Economic Thoughts on the French Paternalism at the turn of the 19<sup>th</sup> Century、日仏経営史研究会、2007年5月23日、東京日仏会館

栗田啓子、Association and/or the State: Economic Governance “à la française”、ESHET-JSHET Meeting、2006年12月19日、Nice University(Sophia Antipolis)、France

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕